12 月27日（日曜日）「主にあって死ぬ幸い」

【新改訳 2017】

黙示録　　14•13

「また私は、天から‥‥‥声を聞いた。『‥‥‥「今から後、主にあって死ぬ者は幸いである。」』御霊も言われる。『しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである。』」

人は必ず死にます。だれもこれを否定できません。厳粛な現実です。そして、多くの人は、苦しまないで死にたい、できるなら幸せな死に方をしたいと願っています。

ここに、その秘訣が記されています。「キリストにあって死ぬ」ということです。神の御子、救い主イエス・キリストを信じて死を迎える者は祝福されているというのです。

これまで、多くの聖徒たちの臨終の際の証しが、そのことを証言してくれました。中学生の少女（白血病）は、「私はイエスさまのお嫁さんになるの」と言い、50 代の姉妹（肺ガン）は、「肉体は苦しいけれども、たましいは大丈夫です」と語りました。66 歳の父は、「死は怖くないよ、永遠のいのちがあるから」と

言って天に召されました。皆、証人です。

～祈り～

主よ。あなたを信じて救われた者は、死を迎えてもなお幸いであることを感謝します。この幸いを多くの人が得るために、人々をお救いください。

【学びのために】

「死」について:①霊的な死、②肉体の死、③永遠の死（第二の死）。聖書では、以上の 3 つの死（三重の死）について記しています。しかし、救い主キリストを信じる時、①今、霊的に救われ、②肉体の死からやがて復活し、③第 2 の死はないという祝福に入ります。